

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.08
2013.August

発行者 琉球病院事務部長
藤田 博文

院長

村上優 (むらかみ・まさる)
1949年生まれ、
74年九州大学医学部卒業。
86年国立肥前療養所精神科医長、2002国立肥前療養所臨床研究部長、
同年King's College London Institute of Psychiatry (司法精神医学研究所) 長期研修。
2005年花巻病院臨床研究部長(併任)を経て、2006年琉球病院長に就任。
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事 NGOヘルパル会の副会長として活躍。



基本理念

院長 村上 優

アカンプロサート(商品名レグテクト)とアルコール依存

本年5月よりレグテクトが世に出て臨床で使用できるようになりました。当院では治験段階より本薬を試みて、断酒率の向上に手ごたえを感じています。現在、通院されているアルコール依存症だけでなく、入院して離脱症が終って身体的にひと段落した段階で、飲酒渴望が湧く時期に合わせて投与を始めています。断酒を目的とする認知行動療法や集団精神療法、生活技術訓練など心理社会的治療と組み合わせて薬物療法を行っています。

アルコール依存の回復に自動グループ、通院、抗酒剤が必要といわれて久しいのですが、嫌酒剤である抗酒剤しかなかった薬物療法に、全く薬理作用が異なるレグテクトが登場したことはアルコール依存症治療には画期的なことです。7月19日岐阜で開かれた第35回日本アルコール関連問題学会のシンポジウムでも取り上げられて、治験結果と考察より適正使用、薬理メカニズム、内科領域での期待が論じられました。

琉球病院では沖縄のアルコール依存をあらゆる角度から解明を試み、新しい治療法を提供してきました。薬物療法もその一つです。アルコール依存となると断酒を試みても強迫的な飲酒へ欲求が生じ、これを飲酒渴望、すなわちのどが渇いたときに水を強く欲する本能のような欲求と呼んでいます。すぐに飲酒をしてしまえば「渴望」は自覚されませんが、アルコールを断とうとすればするほど渴望に悩まされます。レグテクトはグルタミン作動神経系の過剰な興奮を抑止することが知られており、これが渴望を抑えていると考えられています。その作用機序の解明はまだ道途上です。こんなに多い疾患でもまだ分からないことが多いことも事実です。今後も実際の治療を担う立場でアルコール依存症に迫っていきたいと思っています。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい児 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線(浜田)バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
- 進捗状況
 - 準備工事：駐車場整備工事完成、中病棟解体中(平成27年8月31日まで)
 - 本体工事：平成25年8月13日(火)電気、機械設備入札予定
平成25年9月17日(火)建築入札予定
- 琉球病院「盆踊り」
平成25年8月8日(木) 18:00~20:00
於：琉球病院玄関前駐車場(雨天の場合、「あしびなあ」)

求人・情報

- 職員採用試験
看護師 若干名(非常勤) 急募しています。
平成26年度看護職員採用選考 平成25年8月3日(土)
- 看護師奨学生受付開始しました。詳細はホームページをご覧ください。

● 地域医療連携室だより

・活動状況 当院の男子閉鎖病棟は、急性期の病棟です。3ヵ月以内の退院を目標にしていますが退院調整が困難でなかなか退院ができない患者さんもあり、1年以上長期入院している患者さんもあります。退院後は、家族の見守りだけでなく地域の関係機関と連携して地域で受けられるサービス調整を行い、一日でも早い退院ができるよう日々取り組んでいます。



空床状況

7月20日現在

精神科病棟
8床

認知症
3床

アルコール
2床

児童思春期ユニット
0床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30~17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231-234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症に対して、平成22年に1例目の投与を開始し、全症例は85例となりました。平成25年6月の新規導入は2例で、治療経過も良好です。退院数も30例近くになりました。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成25年6月の治療実績は5例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

「今回はこども心療科の流れについてお伝えします。

受診を希望される方は、まず地域連携室にお電話ください。その際、PSWが気になることや相談したいこと、簡単な発達歴をお聴きします。その後、日程調整を行い受診日を決めます。なるべくお待ちせず受診日を設定できるよう努めておりますが、現在は約1か月待ちの状態です。初診は1時間～1時間半で医師、心理士で対応します。その後2～3回受診して頂き、診断・対応についてご報告いたします。子どもの発達や行動で気になることがございましたら、まずはお電話でご相談ください」



認知症医療

オレンジプランにおける当院の役割について

厚生労働省が公表した認知症施策推進5ヵ年計画（平成25年度～29年度）の事を「オレンジプラン」と呼んでいます。『病院・施設型を地域型・在宅型へシフトさせていくための施策』で、認知症高齢者ができる限り住み慣れた地域で暮らし続けられる在宅中心の包括的ケア対策を構築していくことを目指しています。オレンジプランにおける当院の役割は、認知症の早期診断・早期治療の医療機関として「物忘れ専門外来」「MRI（本年度更新）による画像診断」「認知症治療病棟」を有しており、薬物療法だけでなく、作業療法や看護・介護ケアにより認知症生活機能回復訓練を提供できることだと考えています。また現在は近隣地域の施設・病院訪問、地域でのケア会議などへの参加、そして認知症ケアの学習会の計画などに取り組んでいます。今後も認知症診断、治療、ケアに関して拠点病院になれるよう、地域とのネットワーク作りを強化していきたいです。

重症心身障がい児医療

強度行動障がい児(者)とは？

知的障害や発達障害をお持ちの方で、特に自傷、直接的他害（噛み付きなど）、間接的他人害（睡眠の乱れなど）が日常生活の中で著しい方は、強度行動障がい児(者)と定義されます。当院には、強度行動障がい者の受け入れを行っている療養介護病床が80床あります。現在、入院待機の患者様を受け付けております。対象の方がおられましたら、下記担当者までご連絡下さい。病棟見学も可能です。療育指導室 主任児童指導員 守山(もりやま)

アルコール・薬物依存医療（アルコール依存症治療薬「レグテクト」について）

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。

レグテクトは、アルコール依存症者の強い飲酒欲求を直接和らげてくれる作用があります。

当院では7月現在、外来通院の患者様29名、入院中の患者様1名の方が服用されています。

副作用の軟便を訴える人は1名です。その他は「飲酒欲求が軽減した」と話され再飲酒の抑制につながっています。

入院中の患者様へは、導入をすすめている最中です。断酒が困難な方は、ぜひ当院の外来に受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

猛暑の時期になり、訪問看護活動も暑さ対策を行いながら日々活動を行っています。クーラーの効いた車で、利用者様のご自宅に訪問しています。温度差が激しく体調管理に気を使います。しかし、利用者様は、暑い時期にも関わらず、病的体験で窓を閉め、室温が30度を超える部屋で過ごす方、環境調整が上手くできない方等があり、暑い時期の訪問看護は、健康管理面でも猛暑の過ごし方、熱中症対策について指導助言を行っています。自宅にクーラーが設置されていない利用者様が多いため、近場で過ごせる場所を紹介しています。図書館、地域活動センター、公民館等の公共の涼しい場所があれば情報提供ください。

臨床研究部の活動状況

【司法精神医学研究室からご報告】

平成25年5月に行われました第9回司法精神医学会大会で、大鶴卓医師が鈴木基金受賞記念講演をしました。この基金は触法精神障害者による不幸な事件の犠牲となられた故鈴木裕樹先生のご遺族の寄付によって始められた研究基金で、昨年、大鶴医師の研究が選考・審査のうえ受賞が決定し、「医療観察法におけるクロザピン治療の現状と今後の展望」というテーマで研究をされました。大鶴医師の研究が、医療観察法対象者はもちろん、社会貢献につながるかけ橋となりました。

